

部名	経済スポーツ部	課名	スポーツ推進課
----	---------	----	---------

1. 基本情報

事務事業名	17 青梅スタジアム管理事業				事業類型	施設運営受益者負担型						
予 算	会計	10	一般会計	款	10 教育費	項	05 保健体育費	目	01 スポーツ推進費	予算額	6,162	千円
長期計画	章	4 文化・交流活動がいきづくまち		施策分野	4 スポーツ・レクリエーション		基本施策	(2) 体育施設の整備と管理運営の充実				
実施計画	事業番号・事業名 4-6 青梅市スポーツ推進計画の策定・推進											
関連計画	青梅市スポーツ推進計画											
根拠法令等	青梅市体育施設条例											

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	市民	目的（どうい状態にしたいのか）	市民の体育およびレクリエーションその他社会教育の振興を図り、心身の健全な発達に資する
-----------	----	-----------------	--

3. 事業の指標と単位当たりコスト

成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	年度	平成31年4月1日現在人口			市民1人当たりコスト(b/人口)
					30年度 A	元年度 B	対前年度 B-A	
利用者数	各施設利用者合計数	人	目標			10,642	10,642	113.0 円
				実績	10,642	12,827	2,185	
				単位コスト	円 1,646 円	円 1,177 円	円 -469 円	
稼働率	利用枠数/利用可能枠数	%	目標			32.7	32.7	市民1人当たり純行政コスト (f/人口)
				実績	32.7	41.9	9.2	
				単位コスト	円 535,688 円	円 360,239 円	円 -175,449 円	

4. 行政コスト計算書

勘定科目					勘定科目				
年度決算額	30年度決算額 A	元年度決算額 B	対前年度 B-A	区分	年度決算額	30年度決算額 A	元年度決算額 B	対前年度 B-A	区分
職員給与費	1,005	710	-295	経常収益	分担金・負担金	0	0	0	経常費用
賞与等引当金繰入額	89	63	-26		使用料・手数料	356	326	-30	
退職手当引当金繰入額	0	0	0		その他	20	29	9	
その他	0	0	0		合計 (a)	0	376	355	
小計	0	1,094	773	-321	臨時損失 (c)	0	0	0	臨時費用
物件費	8,293	6,197	-2,096	臨時利益 (d)	0	0	0		
維持補修費	0	0	0	臨時損益 (d-c=e)	0	0	0		
減価償却費	8,111	8,111	0	純行政コスト (f)=(b-a)-e	0	17,141	14,739	-2,402	
その他	0	13	13	小計	0	16,404	14,321	-2,083	経常費用
支払利息	0	0	0	その他の業務費用	0	19	0	-19	
その他	19	0	-19	小計	0	17,517	15,094	-2,423	
小計	0	19	0	-19	移転費用	0	0	0	
補助金等	0	0	0	その他	0	0	0	0	移転費用
その他	0	0	0	小計	0	0	0	0	
小計	0	0	0	合計 (b)	0	17,517	15,094	-2,423	

科目	年度決算額	30年度決算額 A	元年度決算額 B	対前年度 B-A
国庫支出金	0	0	0	0
都支支出金	0	0	0	0
その他	376	355	-21	-21
合計	0	376	355	-21

5. 人員体制

	年度	30年度 A	元年度 B	対前年度 B-A
職員	0.12	0.0845	-0.0355	
再任用職員	0.00	0.00	0.00	
嘱託職員	0.00	0.00	0.00	
計	0.00	0.12	0.0845	-0.0355

区分	年度	30年度	元年度
有形固定資産減価償却率		56.2	64.7
受益者負担割合 (a/b)		2.1	2.4

6. 行政コストの主な事項

決算額の主な内訳	経常費用	決算額の主な内訳	経常収益・臨時損益
・管理運営委託料（指定管理料）	6,197,300円	・使用料内訳（スポーツ推進課・市民センター等受付分） 野球場：55,500円、庭球場：270,800円 ・その他内訳 退職手当引当金減額分 29,000円	
主な増減理由	体育施設全体における指定管理料の配分見直しによる指定管理運営委託料の減	主な増減理由	市民センターおよび市役所窓口で受理した使用料の減

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A		
資産の部	事業用資産	3,609,002	3,582,205	-26,797	負債の部	地方債	0	0		
	土地	3,469,852	3,469,852	0		退職手当引当金	1,019	689	-330	
	建物	188,817	188,817	0		その他	0	0	0	
	減価償却累計額	-113,997	-119,253	-5,256		1年内償還予定地方債	0	0	0	
	その他	64,330	42,789	-21,541		未払金	0	0	0	
	有形固定資産	0	0	0		賞与等引当金	0	0	0	
	土地	0	0	0		その他	0	0	0	
	工作物	0	0	0		合計	1,019	689	-330	
	減価償却累計額	0	0	0		純資産の部	固定資産等形成分	3,609,002	3,582,205	-26,797
	その他	0	0	0			余剰分(不足分)	-1,019	-689	330
	物品	3,844	3,844	0			合計	3,607,983	3,581,516	-26,467
	減価償却累計額	-3,844	-3,844	0			負債および純資産の部 合計	3,609,002	3,582,205	-26,797
	無形固定資産	0	0	0						
	投資その他の資産	0	0	0						
	流動資産									
現金	0	0	0							
未収金	0	0	0							
徴収不能引当金	0	0	0							
その他	0	0	0							
合計	3,609,002	3,582,205	-26,797							

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産(土地)	勘定科目	事業用資産(建物)
決算額の主な内訳	青梅スタジアム敷地面積 30,186.58平方メートル	決算額の主な内訳	青梅スタジアム管理棟 軽量鉄骨造 141.86平方メートル 青梅スタジアム旧管理棟 鉄筋コンクリート造 1,160.96平方メートル
主な増減理由	なし	主な増減理由	なし

9. 事業の評価【一次評価】

30年度末時点の課題事項	利用団体が主催する大会規模の縮小といった要因が考えられるが、利用者増加に向け、施設の適切な維持・整備を図る必要がある。	対応結果	解決	事業目的を達成するための元年度事業目標【Plan】	利用者増加に向け、施設の適切な維持・整備を図っていく。	
事業目標達成に向けた主な活動実績・効果【Do】	例年の冬季閉鎖期間を14日間短縮し、利用機会を増やした。					
視点別事業評価【Check】				事業目標達成度評価【Check】		
【必要性】事業の公共性 市民ニーズ	高い(一定の必要性あり)	【効率性】費用対効果	良い(改善の余地あり)	【有効性】事業目的に対する事業実施の効果	高い(改善の余地あり)	達成
元年度末時点の課題事項【Check】	更なる利用者増加、稼働率上昇に向け、施設の適切な維持・整備を図る。	今後の方向性【Action】	現状維持	次年度の取組【Action】	施設の適切な維持・整備を図る。	

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】(対象事業のみ)

評価	<p>本スタジアムは、野球場と庭球場3面を有しており、市内スポーツ団体が主催する大会会場としても利用されており、野球場については、硬式野球ができる唯一の施設であるという特性を有している。</p> <p>冬季閉鎖期間を14日間短縮し、利用機会を増やした影響から、利用者数および稼働率は前年度より増となったが、今後も指定管理者と協力して新しい生活様式に対応しながら施設の魅力づくりに努めるほか、市民に対し利用機会の掘り起こしを図るべく施設のPRに努め、稼働率を上げる工夫をすることとする。</p>
----	--